

さて□□なぜ多くの学生たちが従順に基督教に感化されたか。です。

黒田の偉いところは Clark 先生や学生らにとっても苦しい海路での函館—札幌行きに同行し協力していることです。汽船があまりに小さいため航海は楽ではなかったと記録されていますが、航海中すぐに Clark 先生は“**Be gentleman.**” 紳士たるべき **禁酒禁煙**、一高生に代表されるような**弊衣破帽、高歌吟唱**を禁止するとともに、教科に基督教と聖書を使用することを黒田に説得同意させました。

黒田は当初驚き反論しましたが、貴殿がいかなる方法によっても私に全てを任せるなら学校教育を成功させると互いに約束したのではないかと迫りました。今時の役人、大臣であればまず保身のために拒絶し反故にするでしょうが、黒田は**サムライ**です。そして Clark 先生も何とかつては**勇敢なる軍人（北軍大佐）**だったのです。

この二人が肝胆相照らす会話を重ね相互理解を深めるのに船旅は絶好でありました。

黒田は文武両道の薩摩の人であります。Clark 先生もまた文武両道の間人形成にうまく基督教的教育を導入し、その成果と成長が著しいことを確認した黒田はこれを黙認することにしました。体育は実戦的兵式、時には野球をも取り入れ、室内の座学よりも野外活動を優先奨励し体力強化を行いました。

講義は北海道開拓に関わるいっさいの学問、測量、農学、畜産学、生物学、鉱物化石学、土木工学、等々だったと言われています。もちろん英語で、しかも日本人に苦手とされる**弁舌討論**すなわち**ディベート**に力が注がれたため、多くの卒業生が海外で活躍するのに大いに役立ったのです。現在でも国際社会でますます日本の存在感が薄くなっているのは外交ニュースでご覧の通りですが、隣国の国連大使の活躍？を見るにつけ**ディベート力**が極めて重要となりつつあることを文科省は早く気付いて欲しいものです。人と争うことを避けるのはもはや美德ではなくなっているのですが。（その7に つづく）

*参考

J D A 日本ディベート協会 Japan Debate Association
(<http://www.kt.rim.or.jp/~jda/intro/intro1.htm>)